▼発行 東海村（村長公室広報広聴課）
〒319-1192 那珂郡東海村東海三丁目7番1号 ☎029(282)1711 http://www.vill.tokai.ibaraki.jp

大神宮・村松山虚空蔵堂 大空マルシェ

今年もやります！「大空マルシェ」

日時▼10月8日（土）午前10時～午後5時30分
※雨天決行、荒天時は中止となります。
場所▼大神宮・村松山虚空蔵堂
内容▼ハンドメイドクラフト品の販売やワークショップ、フードコート、ライブ（アン・サリー、inweu、HOT STEPS、磯山純ほか）、着物パフォーマンス、書道パフォーマンス、手形アート、明治から昭和にかけての大神宮・村松山虚空蔵堂の写真と絵図の展示ほか
問東海村観光協会事務局（東海村産業・情報プラザ「iVil（アイヴィル）」内 ☎287-0855）
※詳細は、東海村観光協会ホームページ（http://tokai-kanko.com/）をご覧ください。

ふるさと歴訪 ～歴史を再発見～

徳川光圀の 村松山虚空蔵堂再建

とうかい村いきいきガイドの会顧問 宮内 教男

水戸藩第2代藩主、徳川光圀（1628～1700年）は、「朽弊（きゅうへい）」していた村松山虚空蔵堂の再建整備に力を尽くしました。1686（貞享3）年、光圀は本尊（虚空蔵菩薩像）を修補し、1693（元禄6）年には、本堂の再建工事に着手します。このとき光圀は、工事を請け負った大工の名前まで報告させました。当時の書き付けには「虚空蔵堂は砂ばかりにて固まり申さず候」とあり、虚空蔵堂が砂地であるため、入念な地盤改良工事が指示されたことが記されています。「村松東方人別帳」は、3年に及んだ工事に動員された人足が、延べ1万人余りに及んだと伝えています。

1696（元禄9）年に本堂が完成し、3月6日、虚空蔵堂では入仏式が挙行されました。光圀は自ら村松に足を運び、参列して落慶を祝いました。同年6月に再び村松を訪れた光圀は、白砂の上に宴席を設け、夜遅くまで美酒に浸っています。「空像の殿堂（虚空蔵堂）新たなり 月は出づ村松の海 風は清し正木（真崎）の浜」。この漢詩の作成年月日は不明ですが、この宴席で光圀が作ったと考えられます。

光圀の支援を得たものの、境内の伽藍（がらん）整備は財政的にも簡単ではなく、仁王門も簡素な「素立ち」のままで未完成でした。本堂の再建直後に、虚空蔵堂を訪れた秋田藩士は「（戦国時代に）佐竹御先祖が御建立した本堂は装飾も豪華であったと聞いている」と述べています。光圀が再建した本堂は戦国時代と比べると簡素だったようですが、徳川氏より佐竹氏を〝ひいき目〟で見ている秋田藩士の心情がうかがえます。

光圀の死後も継続された伽藍整備は、1716（享保4）年の三重塔再建により一段落し、虚空蔵堂の威容が整いました。左上図は「村松山虚空蔵堂境内図」（木版）の一部で、伽藍配置など他の絵図とも特徴が一致しています。近世の絵図に共通する虚空蔵堂の特徴は、第1に、境内の高低差が南北に大きく、仁王門前と本堂前に段差が描かれること、第2に、光圀や参勤交代の大名が立ち寄ったり、宿舎としても利用したりした両別当（村松山を管理していた龍蔵院と龍光院）の広い屋敷が、仁王門の東西に描かれることです。この絵図も一部デフォルメされていますが、近世の人々に定着していた虚空蔵堂のイメージを伝えています。

「村松山虚空蔵堂境内図」

ぜひご利用ください！
村公式アプリ「こちら東海村」
村公式子育て応援アプリ「のびのび子育て帳」
村公式フェイスブック「東海村ご当地レポーター」
村公式ツイッター「東海村」